

婦人子とも

第十六卷

第八號

フレイベル會

# 第十六卷第八號目次

文部省保育講習會員諸君を迎ふ

幼稚園の副事業

タゴオルの兒童觀

ブレイクより

郊外の幼稚園

夏の玩具

兒童の個人性(ヘイワード氏)

卓上より

倉橋惣三	倉橋惣三
吉田源次郎	吉田源次郎
K T 生	K T 生
記者	記者
記者	記者
紹介子	紹介子

## 本誌定價

一冊 郵税共金拾參錢 六冊前金郵税共七拾貳錢  
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増

## 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

## 本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレイベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々

木山谷一二四倉橋惣三宛

大正五年八月五日印刷納本

大正五年八月五日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三

東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

編輯兼發行者 倉橋惣三

印刷者 東京市本所區番場町四番地

印刷者 東京市本所區番場町四番地

印刷所 東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 フレイベル會

## 會 告

○會費御拂ひ込みの節は名前は初め御入會の時の御名前へと御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後個人の御名前へにて會費御拂込み等のことなき様、必ず願上候。整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費御未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

羽仁とも子主幹

# 子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。樂んで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御方にこそおすゝめ致します。

定價 一冊 十錢 半 分 郵 税 六 錢 十 婦人之人友社 東京 東 替 一 六 〇 〇 谷 番

# 婦人と子ども

大正五年八月五日  
第十六卷 第八號

## 文部省保育講習會員諸君を迎ふ

本誌の發行せらるゝ時は方に文部省保育講習會の開催中に當り、多數の講習員諸君は熱心に連日の講習を受けられて居る時と思ふ。

文部省保育講習會の斯界にとつて如何に慶すべき事實なるかは、前號に於て吾人の思ふ所を陳べた。吾人は政府の主催なるが故に特に此の講習會を聖別するといふ意味ではないが、從來比較的微々として多く顧みられざる觀のあつた幼稚園教育の爲めに、國家が自ら主催して此の講習會を開くに至つた氣運と趨勢とに多大の意味を感じるのである。更に此の第一回講習會が將來に約束し波及すべき幾多の好影響に就て、一層多大なる意義を

感するのである。後世我國の幼稚園教育史を編するもの、此の講習會に特別の注目を拂ふことなくして其の筆を進め得ないものがあるであらう。

我國幼稚園史上特殊の意味を有すべき此の講習會に講習員たる諸君はおのづから特殊の感興を禁せられぬと思ふ。初め此の講習會の計畫せらるゝや出席希望者の景況に就て、當局に於ても豫想に苦しむ處があつた由に聞く。然るに愈々發表せらるゝに及んでは、申込通告日をついで到り、忽ちにして豫定の員數以上に超過したといふことである。しかも其の申込み通告者は、各府縣に於て選拔を経たる後の數である。若し希望者の總てを出席

せしめ得るとせば、其の數實に算するに違あらざるものがあらふ。盛況といはざるを得ないのである。

各府縣長官の推薦による講習員諸君は單に個人的の興味と熱心とを以て講習會に來聽する場合とは、聊か趣を異にせざるを得ない。すなはち諸君の所屬する各府縣の保育そのものに對する責任を有するのである。之れは、諸君が講習を終了して夫々歸縣の後、之れを具申し報告するの義務を有せらるゝといふ形式上の責任のみを指すものではなく、實に内容的に、實質的に、其の府縣の幼稚園教育の改善發達の爲に、必ず加ふる處あるべきの責任を有するのである。但し此の責任、すなはち廣く國の保育界に貢獻せんとするの意氣は、平生と雖も諸君の常に有せらるゝ處たるに相違ないのであるが、斯くの如き際に當つて、此の覺悟は更に明かに、更に強く意識せられざるを得ないのである。講習會の結果を有益ならしむと否とは素より講習會の内容そのものにあること言を俟たぬのであるが、又一面より見れば、同じ講習會と雖も、講習員諸君の態度意氣の如何によつて其の

効果を多少する處あるも亦免れ難いのである。而して此の所謂講習員諸君の態度意氣なるものは、講習期間内に於ける諸君の熱心と勉強との如何を意味することも勿論であるが、尙又、講習終了して其の各自の園に歸つた後の努力如何をも大に意味するのである。所謂聽き放し、感心し放しは、初めより聽かず、初めより感心せざると、其の効果に於ては、何等差違ないのである。のみならず時には却つて、知識、眞理に對する感受性を鈍化せしめ痲痺せしむるの危險を伴ふものであつて、無益以上、時に有害たるを避け難い。

講習十日の期間に於て、各種の方面に於て諸君の利益せらるゝ處は蓋し多大なることゝ信ずる。講師より學ぶ處に於て、諸縣の同志と語る處に於て、必ずや新たに發見する處の新知識の少なくないことゝ信ずる。諸君は、そのお土産を持つて歸つたらば。直に實行の畑に種殖して、其の土地に相應せる栽培法を以つて、成長せしめ、開花せしめ結實せしむることを怠つてはならない。而して又之れを比隣に頒つことを忘れてはならない。

## 幼稚園の副事業

倉橋惣三

幼稚園の主たる事業が、其の園児の完き保育にあることは言を俟たない。しかも、餘力あらば、否寧ろ當然の餘力として伴せ行ふべきものと思ふ副事業がある。それは一言にして言へば幼稚園の社會的貢獻である。

今日の我國の狀況に於て。學齡前幼兒の問題に關する知識は極めて貧弱である。貧弱といふよりも、寧ろ皆無といつた方がよい位であるかも知れない。其の間にあつて、獨り此の問題に専門的研究をつとめつゝあるものは幼稚園である。而して幼稚園は此問題に關して、社會に此の研究を頒ち教ふるの責務を有するものといはざるを得ない。

幼稚園は純理論的には、家庭の幼兒教育を基礎として、其の上に建つものである。少くも幼兒の生活に關する諸般の注意の如きは家庭が其の全責

任を有するものであつて、幼稚園の直接の問題でないといつてもよいのである。しかし、今日の事實は此の理論の通りに行はれて居ない。是に於て幼兒の問題が、いつでも幼稚園の方から教へらるゝの事實を有するのである。

かくて、幼兒の生活の諸問題、假令ば服裝の如き、朝夕起居の規律の如く、或は營養の問題の如きに至る迄、幼稚園は其の自己の本來の教育任務を完ふする必要上、之れを研究し、又それ／＼家庭に向つて警告を發せざるを得ない場合が屢々ある。況んや、教育本來の領域に入つて、玩具、繪本の問題より訓育上の方針、方法等に至つては、家庭に向つて忠告し要請し、或は嚴戒するの必要を止むなくせしめらるゝことも稀でない。勿論、或る家庭にあつては、之等の諸點に於て、周到綿

密なる注意の行届けるものがあつて、幼稚園が以て學び、以て戒めらるゝ如きことも無いではないのであるが、事實をして露骨に語らしめれば、我國の社會は特に此の幼兒問題に就て餘りに多くの無知を有して、幼稚園の方から教へなければならぬ場合が實に多いのである。

是に於て、吾人は、幼稚園が此の方面に於ける社會的貢獻を、一層有効に、一層親切に、一層組織的に實行するの必要がありはしないかと思ふのである。先づ一例として幼兒の服裝の問題に就ていふべきか、實になすべきこと、なし得べきことが澤山あるのである。勿論幼兒の服裝の如き、一定の形式を以て律すべきものではないが、現に各幼稚園に於て各幼兒の服裝は、保姆の間におのづから比較研究せられて、よしとし、惡しとする種々の點を心づかれ、見出されて居るのであるからそれを一步進めて、組織的に研究し發表せらるれば、服裝問題上の幾多の注意をまとめらるべき筈

なのである。而して、それを父母會等に於て園児の各家庭に忠告し相談することは、既に行はれて居ることであるが、吾人は更に之れを社會的貢獻に迄擴張せられんことを希望するのである。但し社會的貢獻といふことになれば、各園の父母の會などに比して、多少大仕掛けたらざるを得ざるべく、又一層周密な研究をも要することゝなるのであるが、之れは、一區内、一市内等の幼稚園の聯合事業としてすれば別段六かしきことでもないと思ふのである。尙ほ具體的にいへば、假令は一區内の保姆相會合して、幼兒服裝について互の經驗を基礎として相研究し、若し必要あらば、それその道の専門學者なり、實際家なりに就て意見をまとめ、出來べくんば實物の見本を調製し或は繪に描き、寫真に撮りなどして、之れを巧みなる親切なる方法に陳列し、各園を持ち廻りて、其の附近の父母を案内し、説明するといふ様のことをすれば、其の益甚だ尠くないと思ふのである。勿論



斯くの如き社會教育に屬することは、其の效果、目立ちて急にあらはるゝものではないが、久しきに亘つて絶えず續けて居れば、必ず何等かの結果はあらはるゝものである。

季節々々の玩具研究等に於ても同様のことが出来る。此の副事業をする否とに拘はらず、幼稚園は、其の自己の研究事項として、絶えず玩具に注意し、或は蒐集し、或は工夫して居る筈である。それを時々各園より集めて、陳列し、説明し、以て世の幼兒生活に貢獻することは、更めて業を企てずとも自然に出来る副事業である。しかも其の效果に於ては實に多大なるものがある。

服裝、玩具はたゞ一例として擧げた迄である。

その他に幾多の有益なる問題があると思ふが、いづれにしても、幼稚園が眞の平生の研究の結果を少しく整理し、少しく手間をかくれば、以て社會的に大いなる貢獻が出来るのである。副事業といふからには、主事業の他に、全く別個な事業を企

てるといふのではない。そんなこと迄する必要は勿論ないことであるが、主事業に自然に伴ふ結果で出来ることは、世の爲は勿論、主事業そのものゝ爲にも利すればとて損する事は無い筈である。

さて、今日まで我國の幼稚園に此の種の試みの少しも行はれない所以には、凡そ二つの理由が考へられる。一つは幼稚園保母諸君の教育的眼界の局限せられて居ることである。擔任の組を思ふて全園を思はず。自分の園を思ふて保育界を思はず幼稚園を思ふて、一般の幼兒問題を思はず、といった風の狭い處のあるのも其の一つの理由である。

ものは全體から局部へも、局部から全體へも、兩方の方向を以て進み得るものであつて、場合によつては、一人の幼兒を中心として其の教育精神が起り、次第に擴大して一般幼兒問題といふ如き處迄行くものとも考えられるのであるが、又一方には一般幼兒問題に對する精神から幼稚園教育へ、自分の幼稚園へ、自分の組へ、と順次に狭ばめ行く

處に眞の自分の立場も見出すことも出来るのである。いづれにせよ、現在の幼稚園教育者の傾向は

自分を全體の中に於て見ることなく、従つて全體に對する興味の少しも起らないとふ弊がある。次に第二の理由として考へられることは、社會教育と學校なり幼稚園なりとが餘りに隔離して考へられて居ることである。學校教育者、幼稚園教育者等が、その主務として學校内、幼稚園内の教育に専念すべきは言を俟たないが、社會教育に少しでも關與してならないといふ理由は少しもない。否同じ一つの教育精神からは、機會ある毎に社會教育へも延びて擴がつてゆく筈である。學校のことは暫く別問題として、幼稚園教育者に於ては、吾人は之れを幼稚園教育者といふ特殊の教育者として見るよりもより廣い意味の幼兒教育者が幼稚園で働いて居るといふ風に考へたい。若し然らば、その廣義の幼兒教育者が、幼稚園の保育室なり遊園なりから、社會的に幼兒問題へ觸れて行つたと

て何の不思議があろう。寧ろ當然の歸趣ともいふべきである。

市の内に、區の内に、村の内に、町の内にある幼稚園が、其の市の、區の、村の、町の、幼兒問題に社會的に貢獻することは、幼兒教育の専門的知識者を以て自ら居る幼稚園の、當然の副業ではあるまいか。

#### 清水五句

○ さゝれ蟹足はいあかる清水哉

芭蕉

○ 先馬の沓しめし行く清水哉

猿蓑

○ さら／＼と清水に松の古葉哉

長虹

○ 一すくい飲て物いふ清水かな

百明

○ 八九間苔を見上る清水かな

左明

# ブレイクより

K T 生

## 幼きよろこび

「私は名前がありません」

生れてからたつた二日経つただけです」

あなたを何と名つけたらいゝでせうか？

「私は幸福です、

よろこびが私の名前です」

甘いよろこびがあなたに降るやうに！

綺麗なよろこび！

たつた二日しか経つてゐない甘いよろこび、

甘いよろこびとあなたを名けませう、

あなたはほゝゑみます、

その時私は歌をうたひます、

甘いよろこびがあなたに降るやうに！

## 迷兒になつた幼な子

「父さま、父さま、何處行くの？

おゝ、そんなに急いぢやいけません！」

何か言つて頂戴、父さまの小さい子に

何か言つて頂戴、

でなければ私は迷兒になつて了ひます」

その夜は暗かつた、父さまは居なかつた、

子どもは露に濡れそぼつて居た、

泥濘は深かつた、子どもは泣いた、

而して煙る如な霧が飛んで行つた。

## 見出されたる幼な子

迷ひの光に誘はれて

淋しい沼地で迷兒になつた幼子は、  
しく／＼と泣き始めた、けれども神様  
がすぐ近くに

白い衣を着て父さまのやうに現れた。

神様は子供に接吻した、而して手を

ひいて

母さまのところへ連れ歸つた、

母さまは悲しさに頬蒼ざめて淋しい谷

間を

自分の幼な子を泣きながら探し求めて

ゐたのだつた。

### 子守りの歌

子どもの聲が草地に聞える時、

而して笑ひ聲が小山に聞える時、

私の心は私の胸の中にくつろぐ、

而して他のすべてのものも安らかである。

「では歸つておいで、子供達、日は沈んだ、

而して夜の露は置かれた、

さア、さア、遊びを止めて歸らうでは

ないか、

朝が大空に現れて来るまで」

「いや、いや、遊んでゐませう、まだ

晝間ですもの、

而して私達は眠れません、

それに空には小鳥が飛んでゐます、

而してすべての小山は羊で蔽はれて

ゐます」

「それならよろしい、光が消え去つて

了ふまでお遊びなさい、

「さうしたらお家へ歸つてお寝なさい

子供達は跳び上つた、叫んだ、而して

笑つた、

而してすべての山々が舒した、

## タゴオルの兒童觀

早稻田大學講師 吉田源次郎

タゴオルは自然教育を尊重して居ります、彼はガンジス河の上流のボルプールに學校を持つて居ります。これは千九百〇七年、彼が隱遁生活に入る時に創設したのですからもう十三四年も經營して來て居ることになります。

### ボルプールは

### 緑の丘の上に

在る村落で、ガンジス河の支流に臨み、美しい印度の平原を眺め渡す形勝の地ださうであります。

このボルプールの學校には三百人ばかりの生徒があつて、一つの級には十人以上の生徒を集めることは許されて居ません、つまり一人の教師は十人の生徒を引受けることになつて居るのであります。場合によつては一人の教師が一人の生徒に附きつきりにして居ることもあるのださうであります、

而して生徒も教師も一つの寄宿に起臥して居ります。

教師は生徒に對して教へやうと努めずにたい友達となることを念として居ります、即ち注入教育でなく、兒童の能力を自然に誘發して來やうとするのであります。

ボルプールの學校に於ては

### 教師も生徒も

### 朝は四時半に

起床するのであります。而して彼等は宇宙神（ユニバーサル・ゴッド）の讚美歌をうたひながら顔を洗ふのであります、顔を洗つて了ふと彼等は朝の祈りの會を開くのであります。

六時半になると、彼等は極く軽い朝の食事を取ります、彼等は肉を食べず、たゞパンと少量の野

菜とを食べるのみであります。

七時半になりますと學課が始まります。生徒は各自に一枚づゝの筵を提げて、樹の下か涼しい川のほとりに行くのであります、而して一人の教師を取圍んで生徒達は端坐瞑目するのであります。

彼等の學校には、教室は元より、教科書もなければ、ノオト・ブックも鉛筆もありません、歴史地理等すべての學課は直接に暗記させるのであります。尤も物理と化學との實驗室は備へてあるさうであります。

十時半になりますと、全校の生徒は

### 附近の川や湖

### に行つて水浴

を行ひます。斯る時、着物や何かは上級生が取り纏めて保監してくれるのであります、斯く水浴等の場合は勿論のこと、一般に上級生は下級生に對して母親の役目を勤めて居ります。

十一時になりますと、朝と同じやうに宇宙神を

讚美禮拜し、十一時半になりますと晝食を取るのであります。晝食も亦極く軽いものを少し食べるだけであります。

晝食後は午後二時まで生後の自由研究の時間があります。兒童はこの時圖書館に入つて紙に印刷された文字を見、森や野に行つて動植物に親しむのであります。

二時になりますと又集つて

### 筵の上の端坐

### 瞑目を續ける

のであります。斯くて午後四時に至つて學校は全く終るのであります。

四時からは生徒各自が自分の思ふまゝに運動を行ひます。タゴオルは運動家ですから、よく高山を踏破して獵に出掛けるさうであります、斯る時には生徒は炎熱の下に二十哩位、徒歩させられるのださうであります。

ボルブル附近は冬でも耐えられぬ程に寒くは

ないさうであります、それで生徒は年中裸足といふ決めになつて居るさうであります、靴や靴下を用ゐることは許されないのであります。

タゴールの教育はこのやうに一面精神的であると共に一面非常にスバルタ的であります。之を要するに

### タゴールの教

#### 育は自然教育

であります。自然教育と申しますのは、タゴールに據れば、児童の心の中にある無限の力と理智の光とを大自然の力と光とに融合一致させやうとするものであります。大自然と融合一致するための手段として、児童はなるべく、自然即ち森や泉や野や丘と絶えず接近することが必要であります。

児童の學校は都會の中にあつても差支ない、しかし都會では自然物と接近する機會が尠いから、出來ることなら山のはざま、湖のはとり等、直接に自然の抱擁を受け得られるやうな土地にあつて

欲しいとタゴールは言つて居ります。タゴールは

#### 一枚の木の葉

#### 一輪の草の花

の中にも、無限な自然界の神秘が動いて居ることを直接児童の心に經驗させることを努めて居ります、斯る考から彼は林間の學校を獎勵して居るのであります。

ボルブールの學校では夜になると、生徒達は教師を中心として、種々の精神的な談話を交換します、又晴れた夜などには一群の生徒達は教師に導かれて戸外に出で、天體鏡を握り締めながら、星の世界との交通に餘念がありません、這麼時には一方寄宿舎の窓からは、たのしげな音楽の聲が漏れて來るのであります。ボルブールの學校は、殊に夜に於て、そのまゝに詩であります。

生徒達は又各自に動植物の世話をして、その生活を知ると同時に種々なる實驗をも行ふのであります。

彼等は自然を通じて、宇宙の精神を見るやうに導かれるのであります。タゴオルは

### 智識の人を造

### ることを望ん

では居りません、靈的人を造ることを望んで居るのであります。

歐羅巴の教育は牢屋のやうな赤煉瓦の中にたてられて居る、歐羅巴の兒童はその本然の性を破壊せられて一種の不具な近代的な器となるべく教へられて居る。彼等は國家の手段として——國を富ますため、兵力を強めるために教育せられて居る乍併教育といふものは國家や民族の道具を造るために行はれるものではない、人間それ自身を完成するために施さるゝのが眞の教育でなければならぬ、兒童の個性に絶對の權威を認めて行ふところの教育が眞の教育である、個我は國家民族を超越した立場に置かれて教育せらるべきである。

### 靈的な絶對な

### 人間を造る事

が教育の目的でなければならぬ。タゴオルは斯ういふ風に言ふのであります。

先日横濱の三溪園にタゴオルを訪れた時、國家や政府の話が出ましたが彼は國家や政府は一面から言ふと個我とは何の交渉もないものである、立派な壁が光り輝いて居る時、その上に雲がかゝつても壁は依然としてその價值を失はないのであるといふやうなことを熱心に言つて居りました、彼の兒童に對する考を最もよく現して居るのは

### 詩集「新月」と

### 戯曲「郵便局」

との二つであります。

彼の見た兒童は、ウォーズウオースやウイリアム・ブレイクに餘程似て居るところがあります、彼は兒童の周圍には絶えず一種の淡い神秘性が漂うて居ると思つて居るのであります。兒童は大人の解することの出来ない未知の世界の言葉を語る



とか兒童の假睡<sup>まどろ</sup>んで居る睫毛には神秘の國のなつかしい影が漂うて居るとかいふやうなことを彼は言つて居ります。

兒童は私達の生れなかつた前の世界の暗示者であり、私達の尋ねやうとして居る未知の世界を語る豫言者である。私達は子供の頑<sup>がん</sup>是不<sup>ふ</sup>一舉一動又は意味のないやうな

### 片言の中に無限の神秘の影

の浮んで居るのを見逃してはならない、と斯うタゴオルは言つて居ります。

兒童程自然界の神秘を味つて居る者はありません、この兒童の特權を間違つた教育は破壊して丁ふのであります。教育は兒童の純な心、眼に見えぬ世界を見て居る心を何處までもはぐくんで行かなければなりません。

彼は又幼兒は人間に愛を教へんが爲めに造られたものであるといふ風に見て居ります。彼は這麼

風に言つて居ります、幼兒は「あらゆる種類の賢い言葉を知つて居る、この世界ではそれらの言葉の意味を了解するものはあまりない」、而かも幼兒が言葉を語らないのには意味がある、それは

### 母の唇からな

### つかしい言葉

を直接に教りたいからである、つまり赤ン坊はいろ／＼の言葉を知つて居るが母親にバ、とかマ、とか言つて貰ひたいために言葉を語らないのであると彼は言ふのであります

「幼兒は黄金と眞珠とを積み重ねてゐた、けれども彼は乞食のやうにしてこの世界に來た」、彼が假裝して來たのには意味がある、この愛らしい小さな、素裸かな乞食は自分を全く頼りない身だと偽つて、裕かな母の愛をねだるのである、母の心に愛を起させるのである。

「幼兒はちつぽけな新月の國では、すべてのほだしから自由であつた」、彼がその

自由を棄て、

この世界に來

たのには意味がある、それは母の小さな心の隅には限り知らぬ法悦の空地が残されて居る、而して彼女のなつかしい腕にかゝえられ、抱きしめられるのは、自由そのものよりもずっと快いことである、それ故彼はわざと自由の國を棄て、來たのである。

「幼児は嘗て泣くといふことを知らなかつた、彼は全き天福の國に住んでゐた」、彼が涙を流すやうになつたのには意味がある、彼は彼の愛くるしい顔のほゝるみで彼に對する愛顧の心を惹くことが出来る、けれども何ともないことに泣き出す彼の涙は一層いぢらしい母親の愛を惹き起すからである。斯くの如く

タゴオルは兒

童といふもの

を母及び人類一般に愛の心を喚び覺ますべく人界

に遣された神の使であるといふやうに見て居るのであります。

タゴオルの學校教育に對する心持は彼の「花の學校」といふ詩によく現されて居ります、

花の學校

暴風雨あらしの雲が天空にとよめき、六月の驟雨が降る時に、

濕つた東の風が竹のなかに風笛を吹きに荒地を越えて進むで來る、

花の群が急に出て來る、誰も何處だか知らない場所から、そしてほしいまゝな宴樂のなかに草の上に踊る、

母かあちゃん、私はほんとうに想かんがへる、花は地の下の學校に行くんだと

彼等は扉を閉ぢて、彼等の課業を教つてゐるとしても、もし彼等がまだ時間前に遊びに出て來ようなら、彼等の先生は、隅の方に彼等を立たせる。

雨が降つて来る時に、彼等は休み日を持つのだ。梢の森のなかに一緒に丁々と搏ち合ふ、葉ははげしい風のなかにざわ／＼と葉摺れする雷雲は巨人の手を拍つ、そして花の子たちは眞紅と黄と白の着物で跳び出して行く。

知つてゐるの、母ちゃん、彼等の家は大空にあることを、あの星があるところに。

母ちゃんは彼等がどんなに熱心にそこに行きたいと思つて居るか見れるの？ 母ちゃんはなぜ彼等がこんなに急いでるか知つてゐて？

無論、私は彼等が彼等の腕を誰にさへげてゐるかを推し量ることは出来る。彼等は彼等の母ちゃんを持たなければならぬ、恰度私が私自身の母ちゃんを持つて居るやうに、

タゴオルは硝子窓の中で教へるやうな教育、言ふことを利かぬ兒童を室の隅に立たせるやうな教

育を嫌ふのであります。風に吹かるゝ木の葉や花びらのやうに、

### 兒童の自然性

### のまに／＼教

育は行はるべきであると彼は言ふのであります。

又彼の詩「星學者」の中には次のやうなことが書いてあります。

弟が言ふ、「夕暮になつて眞丸い満月があのカダムの木の梢の中に絡みついたら誰も月を捉へることは出来ないのかしら」

兄が笑つて言つた、「赤ン坊、お前は世界中で一等馬鹿な子だ、何うして誰にだつて捉へられるものか、あんなに遠いんだもの」

弟が言ふ、「兄さん、お前は何て馬鹿だらう、母ちゃんが彼女の窓から覗いて、私達が遊んで居るのを笑つてゐる時に、お前は母ちゃんが遠くはなれて居ると思ふか」

兄が言つた、「お前は間拔な子だ、お前はその月

を捉へるやうな大きな網を何處から持つて來るんだ」

弟が言ふ、「確かにお前はお前の手でもつて捉へることが出来る」

兄が笑つた、而して言つた、「お前は一等馬鹿な子だ、私の知つて居る限りで。若し月がもつと近く寄つて來たら、どんなに大きいか知つてるか」

弟が言ふ、「兄さん、お前の學校では何て馬鹿なことを教へるのだらう、母ちゃんが私達を接吻しやうとうつむいて來る時に彼女の顔がそんなに大きく見えるかい？　大きく見えるかい？　だけど又兄がいふ、「お前は間拔けな子だ」

この詩に現されて居る兄は現代の智識教育を受

けて居る兒童、弟はタゴオルの所謂本然性を傷けられずに教育されて居る兒童を意味して居るのであります（文責在記者）

## 人形芝居

人形遣ひの木を叩く音がします。芝居の始まることを見物に知らせるのです。幕が上がると舞臺の窓のところへ面白い帽子を冠つた頃の桃色な娘の人形が出て來ます。一幕の初毎に、必ずこの娘の舞踏の眞似があるのです。吾國のことで言へばあれば三番兎にあたるのだらうと思つて見て居りますと、「キキ、キユ」と人形の鳴く音がします。

人形を抱いて遊ぶ女の兒の見物なぞはその鳴音を喜ぶことがおびただしい、舞踏の眞似といつても眞に無雜作なものです。その無造作で單純なところが反つて子供の心を樂ませます。（島村藤村「戦争と巴里」より）

## 郊外の幼稚園

記 者

試みに飛行機に乗つて、東京市の上空何千呎の高所に上り、模糊たる下界を瞰下してみる時、其處には鰐魚の背のやうに凹凸のある灰色の一矩形が海を含み、緑に包まれて、難然たる音響を發しつつ、横つて居るでありませう。雑音の領域！塵埃の世界！それは都會生活をする人々の何うしても免れることの出来ない世界であります。

△僅かな土地々々が住はうとする場合、各々の人△に多勢の人が空氣の流通と光線の普及とを十分に分け前することの出来ないことは略易い道理であります、おまけに近代の文明生活は吾人をして屋内の生活を餘儀なくせしめる場合が多いのでありますから、都市居住者は益々神經を尖らし、身體を細らして行くばかりであります。それ故都市居住者は年々郊外へ向つてその居宅を求め、汽

車、電車の便を利用して、市中の事務所に通勤するのであります。斯くて彼等は辛うじてその健康を保持して行くのであります。極言すれば都會生活と健康とは兩立し得ないものであるとも言はれないことはありません、そこで、

△空氣と光線攝取し、元氣よく遊ばなくてはな△とを十分にらない兒童が私達の考案に入つて來る時、私達はこの狭苦しい喧騒な都會生活を更に烈しく呪はなければならぬことを思ふのであります。幼稚園は本來の性質上兒童の遊園であるべきである、のびやかな遊園を持つ幼稚園こそ兒童に取つて幸福な幼稚園である。建築の設計に於て如何に完全に衛生的條件に適うた建物と雖、空氣の流通、光線の普及といふ點に於ては到底戸外とは比較にならないのであります。監視の届く範

園に於ける十分廣き遊園は幼児保育のためになくてはならぬものであります。然るに幸なる哉、最近に至つてこの點に着眼する人々が多くなり、續々郊外に幼稚園が設立さるゝやうになつて來ました。この溫氣にこちたき理屈めいたことはもう止めとして、私はこれから郊外の幼稚園に兒童の、  
△はれやかに嬉戲する様を見度いと思ひます。  
△のびやかにそれは我國の習慣として小僧さん達が半年に一度慈愛深き兩親の許へ歸り省することをゆるされる七月の十五日でありました、私は東京の西北郊の幼稚園を巡つて歩きました。薄曇つた空に朝の太陽は燦ぶし象眼のやうに鈍く光つて居りました、私は新宿の追分から京王電車に乗つて四ツ目の停留場代々木で下車しました、久留島先生の第二早蕨幼稚園をお訪ねするつもりなのです。電車を降りて幅の廣い、しかし短い橋を渡ると、十三間道路と呼ばれる廣い道路が眞直に、ツイ五六丁先の代々木練兵場へ續いて居ります

道の右側は山内侯爵邸で、萬里長城式の鼠壁がズウツと道に沿うて走つて居ります。突當りの練兵場の黝んだ小森は朝靄の中にしつとりとその姿を落附かせて居ります。萬里長城の盡きたところを右に曲つて、瓜先下りの坂を一丁程も行くと、左側に

△木の香の新があります、これが第二早蕨幼稚園△しい西洋館園でした、園長さんにお目にかゝりたいと思つて刺を通じたのでしたが折悪しく御不在で、保姆の岡田先生にお目にかゝりました。この幼稚園は昨年まで同じ代々木の山谷にあつたのでありますが、十月から現在の場所へ引移つたのであります。兒童は軍人のお子さんが過半数を占め、その他も大抵智識階級のお子さんが多いので非常に保育し易く、言葉使ひなども奇麗なお子さんが多いさうです、一般に幼稚園の性質を理解して居る家庭が多いので保育の打合せ等をする場合にも非常に都合がいゝといふやうなお話を岡田

先生に伺ひました。練兵場が近くなので、この園の男の兒童は皆兵隊遊びを非常に好むさうです。

岡田先生に御案内を願つて遊園へ出てみました。

一體今この幼稚園のあるところは元、藪の生ひ茂つてゐた傾斜地であつたのださうです。傾斜地の上に建物が建てられ、傾斜地及びその下の平地が遊園となつて居るのであります。傾斜地には藪林の名残を偲ばせる赤松の太木がニョキ／＼と生えて、涼しい蔭を地に刷いて居ります。園の外側は一段低く、畑になつてゐて、向ふの稻田を渡つて來た風に、お芋の葉がうれしさうに踊り上り、△薄むらさきが下を向いて忍び笑ひをして居り△の茄子の花ます。「お米の生る木」をさへ知らない市中の兒童に茄子の實つて居る畑をまのあたりにみせたならば甚麼に喜ぶでせう。岡田先生は「その向ふに馬鈴薯が生えて居りますがあれをダリアだと思つてゐたお子さんがありました」と仰有いました。私は觀賞用のダリアをさへも、

その自然の狀態に於て觀察する機會を與へられてゐない兒童のことを思つて、「あれはダリアではありません、皆さんのお食べになるジャガイモの出來る草ですよ」と教へられる兒童の幸福を思はないわけにはゆきませんでした。

二人の保姆の方に連れられて四十人ばかりの兒童が傾斜地の上の保育室から出て來ました。坂を駆け下りる兒童もあります。毛繻子の前掛けをした五才ばかりの兒童が坂を駆け下りるハヅミによろけて轉びました。それでも泣かずに起き上りました。兒童は廣々とした遊園の中を飛びまわり、跳ねまわりして遊んで居ります。兒童は皆、

△板の裏打を穿いて居ります、この草履は一週△した草履をに一度づつ保姆の方々が園の隅にあるポンプ井で洗濯しますので、兒童は足のよごれることなぞを氣にせず、自由に生地ナイロンの上を駆けめぐるゝのが出來るのであります。傾斜地の一部は雜草の生ふるに任せてありますが、通路や何か

に生える草は保姆の方々が摘取られるさうです。

垣の下には五十ばかりの大小の植木鉢が一行に並べてあります、これは兒童各自の植木鉢で朝顔が植えてあるのであります。この鉢の中には園長さんのを始めとして、保姆の方々のも入つて居るのであります。兒童がめい／＼に所有權を持つて自分の鉢の朝顔を丹精することの結構なことであることは言ふまでもありません。傾斜地の上には木造の小舎が建てられてありました、この小舎に入るべき鳩や小鳥は近い内に來るのださうです。保育室のすぐ外に、兎の小舎が取附けてありました。兎は近頃仔を産んださうです。岡田先生は兎の逃げて困ることや病氣のせいかして親兎が仔兎をチツとも可愛がらないことやをお話なさいました。

同じ日に私は和田先生の目白幼稚園をお訪ねしてみました。目白幼稚園は目白停車場のすぐ上にあります。よく肥えられた、ニコ／＼した和田先生は私が來意を申上げると、

△『私の幼稚園』やる人間が平凡ですから』と先づ△は平凡です。謙遜なさいました。先生の氣の置けない、ザツクバラんな調子は對者に安易な心持を起させます。以下に先生のお話の概要を摘記して先生の幼稚園を髣髴させたいと思ひます、私といふのは和田先生のことであります。

「私は特に郊外に幼稚園を造らうと思つたわけではないのですが、自分の理想通りの幼稚園を造りたいとしたところから自然郊外へ出て來たわけなのであります。現在の規定に従つて理想通りの幼稚園を造るとなるといふと、最小の計畫を立て、みても、三百坪の地面が要るのです、ところが今、東京市中には却々そんな餘裕の土地が残されてはゐない。私は此地へ幼稚園を拵へる前に、本郷や麻布や代々木等にも候補地を選定したのでありますがいづれも都合悪しく、到頭この地に決めることゝなつたのであります。私は直觀教授といふことを尊重したいと思ひます、これはベスタロツチ



以來、盛んに唱へられて居ることではありますが、實際に於ては種々行ひ難い事情があるので却々十分に行はれてはゐないのであります。私は何うかしてこの

△直觀教授を　ことの出来るやうな幼稚園を造り  
△容易く行ふ　たいと思つたのであります。私は私の理想に近い、完全な幼稚園を造ることが目的であつたのであります。斯くて私はこの目白に幼稚園を造ることになつたのであります、此處は直觀的材料が實に豊富であります、水の觀察をしやうと思へば、兒童と一緒に園外を一まわりしてくれば田の水、小川の水、池の水、草の葉の露、蜘蛛の巣に溜つた水珠等種々の態をした水を直觀することが出来るのであります。木の葉の觀察をしやうと思へば矢張り兒童と一緒に園外を一まわして來れば、植物學上に於て分類せられたすべての種類の葉は悉く集るのであります。それにこの目白は東京では一地空氣がいゝさうであります。尤

も冬は少し寒さがきびしいさうです、それは何故かといふと、

△秩父地方の　來た涼しい風が、西北の方から東  
△青巖を吹て　京へ入つて來るのでありますが、目白は丁度その入口に當つて横はつて居る高臺であるからであります。それに又こゝは水が大變よろしいのです、この邊は土地は一番上が赤土層、次ぎが粘土層で、こゝからいゝ水が出るのであります、この附近では皆この粘土層の水を用ゐて居るのであります、しかしこの粘土層の下に礫層がありまして、こゝに溜つた水は更に更に上等なのであります、私の幼稚園の井戸はこの礫層まで掘り下げてあります。私は幼稚園の兒童があまり遠くから通つて來ることには不賛成です、それで私は附添の要る程遠くから通ふ兒童を豫想しませんが、私の幼稚園には附添室が拵へてありません尤も今、神田から山の手線を利用して通つて來る兒童がありますが、この兒童の附添は附近へ小さ

い家を借りて、そこに待つて居ります、これは両親がお醫者で、子供を毎日空氣のいゝ郊外へ遊びにやるつもりで附添を附けて寄越して居るのであります。通つて来る兒童は大抵中流の家庭の子供なので素直な子が多く、手に餘るやうな子はありませんから非常に保育し易いのであります。叱るとか監督するとかいふことによつて、消極的に頭を痛める必要はなく、たい積極的に計畫してさへゆけばいゝのでありますから、保育の効果を顯著ならしむることが出来るであらうと思ひます」和田先生はそれから立つて、園内を御案内下さいました。

△板敷の上に 五間四方の遊戲室の一隅にはビ  
△畳表を敷い アノが一臺備へてあり、壁には兒童の創作のために黒板が取付けてありました、又他の壁には夏の海岸の色彩畫が掲げてありましたこれは時々畫家を頼んで來て、兒童の見て居る前で描いて貰ふのださうです、この彩色畫の前には

低い二り臺が据ゑられてありました。作業室は遊戲室に較べるとやゝ暗く、しつとりと落付いた氣分の漂つて居る室でした、こゝにはオルガンが備へてあります。和田先生は恩物一切は無論のこと殆んどであらゆる種類の普通玩具を持つて居られます、多方面に發達して行く兒童に對して恩物だけでは不充分であるといふのが先生のお考なのです。和田先生は「幼稚園は建物だけあつたとて仕方がない、内部の設備が完備し、玩具が澤山取揃えてなければ幼稚園とは言はれない」と言つて居られました。保育室の窓の下には横九尺、長さ三間餘の砂場がありました。

△遊園は二百 周圍には青桐や櫻が植ゑ並べてあ  
△坪ばかりで ります。遊園の奥には直觀的材料を得るための畑があつて、種々なものが栽培してあります。遊園と畑との境近くに土山があります、近い内にこの山の前へ池が出来るのださうです、藤棚を作るべき藤もよく成長して居ります。

目白幼稚園の記事はこの位にしておいて、次ぎは山の手線ですぐお隣りの池袋驛に程近い池袋幼稚園のお話をいたしませう。

池袋幼稚園は多田先生の御經營で豊島師範學校と成蹊中學校との間に挟まれた五百坪餘の地域を領して居ります、保育室や遊戯室は遊園に取園まれた青塗りの西洋館の中にあります。私がお訪ねした時は園長さんがお留守で、保母の只野、今城兩先生にお目にかゝつていろいろお話を伺ひました。池袋幼稚園は本年の三月十八日に開園式を行ひましたので木の香がまだ新らしいございます。この園の附近にも、

△田畑や森林 空氣がよいことは申すまでもあり△が多いので ません。日當りもいいし、郊外の幼稚園として利用し得べきあらゆる便宜を持つて居ることは、前の二幼稚園と同じであります。池袋幼稚園に就ても、前の二幼稚園と同じやうに書くことは澤山あるのでありますが、前の二幼稚園の

記事に用ゐたと同じやうな文字を繰返すことになり、ますから、これだけに止めて置かうと思ひます。尙この日都合がわるくて、參觀し残しましたが、巢鴨には西山先生の帝國幼稚園があります、矢張大變廣い遊園があつて、西山先生の所謂露天主義の保育を行うて居られます。池袋幼稚園と帝國幼稚園とは他日詳記する機會のあることを信じます。

### 水 蟲 の 列

朽ちた小舟の舟べりに、  
赤う列<sup>な</sup>みゆく水蟲よ、  
そつと觸ればかつ消えて、  
またも放せは光りゆく。

「おもひで」より

# ■ ■ ■ 驗溫器のお蔭で子供の命拾ひ

東洋家政女學校長 岸邊 福雄

遠方への旅行には、假令大人ばかりであつても餘程用心しなければ、途中で急病等が起つたら、單に難儀するばかりでなく或は醫藥の手當が後れたりして、意外の大事を惹起することがある。況して自ら身を衛むことの出来ない小兒を同伴した場合などには、親達は一層周到なる注意を拂つて遣らなければなりません。

此話のもう七日程以前のことでありすが、學校の方が夏の

休暇になりましたので、當時六歳に四歳に生後五六ヶ月の乳兒との三人の子供を連れさして、家内を私の郷里なる丹波に遣したことがありました、其時一番末の乳兒の健康が、長途の旅行に堪え得るか否やが少しく懸念せられたものだから、懇意の醫師に頼んで健康診斷をして貰ひました。で序だから他の二兒の診斷をも乞ひましたが、三人とも大丈夫だとのことと安心して出立させたのでありました。

併し私は旅行の場合、殊に子供連れの時の如きに、必ず驗溫器と水枕とを用意することにしてゐますから、此時にも忘れず持たせて遣り、途中名古屋あたりで一度、又京都邊に行つたら今一度各兒の體溫を驗して見るやうに、それから子供等の大便は必ず新聞紙へなり受けて一應検査するやうにと申付け尙箱根を越す時には、隧道が多いので屢々汽笛を鳴らし、且つ轟然たる音響が續くのであるから、乳兒にだけは綿にて耳に栓を爲てやり、成るべく驚かさぬやうに爲すべしなど注意して、新橋まで見送つて、一等に乗せて立たせました。未だ父親の私は一

等に乗つたことはありませんでしたが、幼児三人まで連れての長旅のことだから、見榮や贅澤ではないが、衛生を思へば雑沓してゐる汽車の三等や二等には乗せられなかつたのです。

家内は私の申し付けた通り名古屋で一度各兒の體溫を驗したが別に異狀は無い。次で夜の明方に京都に着いたから又驗溫器を當てゝ見ると今度は上のと乳兒とは無事であつたが中の四歳になる子が一人少々熱が有る。だが大した事もあるまいと、其儘神戸まで行きますと、同地には知人が在つたものだから、停車場まで来てゐてくれて、お菓子や玩具等を子供達に與へたけ

れど、上の姉は大層悦んだが次の子は如何にも大儀さうに見えて元氣が無い。そこで家内も氣がゝりなものだから又々驗溫器を當てゝ體溫を見ると殆んど四十度の熱が出てゐる。次に大便を新聞紙に受けて検査して見ると白い粘便に少量の血が混つてゐるのです。之は捨て置かれぬと猶豫なく姫路に下車して、直に病院に連れ込んで院長の診察を乞ひますと、急性の大腸加答兒即ち疫痢に罹つてゐたので、餘程病勢が進んでゐるのです。

旅の空で斯様な大事が突發して、然も他にまだ二人の幼兒を伴つてゐるのですから、家内も

大きに心痛致し、院長も首を傾けて何彼の注意も有つたものだから、畢に危篤の電報を打つて來ました。

其時私は一人東京に留守居をしてゐて、最う郷里に着いた時分だが、途中は無事であつたか知らんと案じてゐる所でしたから、大方安着報知の電信だらうと思つて開いてみると大違ひ、子供が途中で危篤といふのだから驚きましたね、東京にも離し難い要件があつたのですか、そんな事は言つてゐられない、即刻出發して姫路に向ひました。成程斯様な時には汽車の馳り方が平日よりも遅いやうに思はるゝのですよ。其内に漸やく

姫路に着きましたから、急いで病院に行つてみますと幸にも手當が早かつたため命には別條なく、其後日を追うて快方に向ひ廳がて日ならず退院して丹波の郷里に行くことが出来ました。

其時は實に驗溫器のお蔭で愛兒の生命を拾つたのです。萬一驗溫器の用意がなくて、子供の發熱を左迄の大事とも氣付かずうっかりしてゐて其儘郷里まで乗り續けたら、姫路からまだ三時間の餘もかゝるのですから、屹度取り返しの付かぬ不幸を見ただであらう。或は郷里に着かぬ間に汽車の中で死んで了つたかも知れぬと思ふと、今でもぞつとして寒氣を覺ゆるのです。そ

れ以來一層驗溫器の有難味が解りました。

これは私が見た話なのですが或夏の旅行中、同じ汽車に乗り合した四十才位の紳士が五六歳のお嬢さんを連れてゐましたがその娘が眠氣を催すと他人の迷惑にならぬ範圍内に寢場所を設けてやり、鞆の中から二三尺の針鐵を取り出したから何をするのかと思つて見てゐると、それを半圓に曲げて窓側に挿し、横に娘の顔の上に出るやうにして其上からペールのやうな薄い布を覆ふたから即座に枕蚊張が出來た。成程斯うすれば煤煙が飛んで來ても眼や鼻に入る氣違ひはなく、子供も樂に眠れるだら

うと感心した。この紳士は尙時々ハンケチで娘の汗を拭うてやり、廳がて娘が眼を覺して起き上がると、鞆の中から着替を取り出して、汗の泌みてゐない衣服と取り替へてやり、用意の水にて手拭を濕し、叮嚀に又顔を拭いてやつてゐました。私は婦人も及ばぬ此紳士の世話振りに子を愛する真情が溢れてゐるのを見て、何とも言へぬ麗しい感じに打たれました。

〔家庭と趣味七月號〕

## ■ ■ 幼年繪雜誌に就て

東京女子高等  
師範學校講師

倉橋 惣三

吾人の希望として、幼年繪雜誌は、學校教育の、殊にその教授方面の補助手段としてよりは情緒教育を主としたる、遊具性のものでありたいといふのである。繪雜誌が殊にその畫家を選び、色彩印刷に意を用ゐて、所謂藝術的力によつて幼兒に接せんとするのは、此の方面に於て最も有力なる所以であると思ふのである。

多數の幼年雜誌が発行せられて居るといふことは、自からその選擇の必要が多くなるわけだ

あつて、然かもこの選擇は必ず父母のなすべき仕事であるのである、若し父母にして細心なる注意を拂はなかつたならば、反つて最愛の子供の爲に害を來たすといふやうなことがないとも限らぬ。殊に繪雜誌、讀物が必要であると言つても、その分量の關係は大いに注意を要するこゝとであつて、今日の如き雑多なる繪雜誌を、不規則に亂讀するといふが如き風のあるに對しては父兄は最も意を用ゐなければならぬ、更にかくの如き繪雜誌類

は社會教育の性質を帯びて居るものであるから、これが監督に關しては、社會が適當なる注意と方法とを心掛けなければならぬ。それには幼年繪雜誌の監査機關を設くる、といふやうなことも必要であらうが、又社會的批評の力を以て、不良なる種類のものゝ存在を爲し得ざるやうに、嚴格なる批判を加へることも、最も必要であらうと思ふ。

之を要するに幼年繪雜誌の眞面目なる意義と、之がために力をつくすの必要と極めて亂雑なる實情との混亂してゐるのが今日の狀態ではないかと思はれる。(『教育時論』第一二四號)

## ○兒童の個人性

——ヘイワード氏『ベスタロッチ及フレーベル』の教育觀より——

紹介子

兒童の個人性に就ては、ベスタロッチもかなり  
説いて居りますが、フレーベルの方がより多く説  
いて居ります。

ベスタロッチは「人は自ら學ぶやうに力づけら  
れなければならぬ、而して自由に發達するやうに  
許されなければならぬ、斯くして始めて種々異り  
たる個人的才能が出現し、且又顯著となるのであ  
る」と言つて居ります。彼はもつと強い、誇張的  
な言語を以て次のやうにも言つて居ります。「個人  
の固有の性質といふものは、私の考では、人間性  
の最大なる幸福であり、人間性の最大にして且つ  
最も本質的な幸福の基礎である、それ故にこ

の固有の性質といふものは極度に尊重せらるべき  
である」、而して彼は圖畫の時間に釣合の取れた美  
しい形を工夫するやうに兒童を奨勵しました。

ベスタロッチは壯年時には、一般の教育論を、  
兒童の個人性に對して何等の寄與をも爲すもので  
ないといふ理由で排斥して居りました。人類全體  
ばかりを考へて、一人々々の個人といふものを考  
へない單なる教育論は無價値であると彼は考へた  
のであります。

けれども、しばらく經つて後、彼は如何なる教  
師にも等しく巧みに應用することの出来るやうな  
「方法」を夢想して居るのであります、而して復



しばらく経ちますと彼は、教育の一般組織が個性を破壊するなどと考へるのは間違ひであると言ひ出しました。個々の兒童の個性を認めて、これを教養するところに教育の一般性が存する、「方法」は兒童の中に能力として既に存在してゐない何物をも發達させやうと望みはしない、而して又この能力はそれ自身から、即ちそれ自身の中心から發達すると彼は言ふのであります。

兎に角、この問題に關するベスタロツチの言説は餘程フレーベル式であります、けれども私達はこの兩人が大體に於て、學校教育ではなく家庭教育を考へてゐたのであるといふことを忘れてはなりません、若し學校教育を論じて居るとしたならば生徒の個人性に就て嚴格に考へることは禁ぜられるであります。乃でフレーベルが言ふ如き勸告は不幸にもそれが價ひするよりも、より尠き服従を受けなければならぬのであります。六十人七十人乃至百人もの生徒を收容して居るクラスで

は貨幣を造るやうに、生徒を一つの鑄型に倣めて了ふやうなことになるかも知れませんが、これは止むを得ないことであります。それに弊害が伴ふとはいふものゝ、「自然」尊崇者が想像する程の甚しい弊害は先づ無いであらうと思ひます。

### 軟教育學と硬教育學

現今の教育界には硬教育學に傾いて居る教育者と軟教育學に傾いて居る教育者とがあります。ヘルバルト學派の人々は興味といふことに力點を置いて居るために、この後者の方に屬して居るやうに言はれて居ります。ヘルバルト學派の所謂興味とは眞の自己活動と同じ意味で甚だ積極的なものであります。けれども彼等は單なる形式的教育の組織——生徒を抽象にのみ赴かしめ、事實の滋養分を取り去つて了ふ組織に對して、烈しく抗議するのであります。如上の見地からベスタロツチを研究してみるのも興味のある、有益な仕事である

と思ひます。

ベスタロッチが兒童に關して——彼が非常に愛してゐた自分の息子に關してすらも——決して弱々しい感情に耽つてゐたのではないといふことは明かであります。彼は自分の息子が欲しても欲しなくつても必ず毎日規則正しく勉強させやうとしたのであります、こゝのところはベンソン氏の、

「覺生の仕事は精神的努力が行はれたか何うかを調べるに在る」といつたのとよく似て居ります。

ベスタロッチは體操をそれ自身の目的に於てあまり注意しませんでした。よく意味の分らない言葉を知つて居るといふことは眞實を獲得する上に於て甚しい障礙を爲すものであるといふやうなことも彼は言つて居ります。

兎に角ベスタロッチの若い頃に發表したいいろいろの言説には硬教育學に傾いて居るものゝ多いことは事實であります、彼は自己抑制や氣に向かぬ仕事をするこゝとや六ヶ敷い學課を義務で學ぶこゝと

やを尊重しました。遊戲で兒童を保育して行くことなどは決して彼の同情を得ることは出来ませんでした。彼は仕事は仕事、遊びは遊びと別々に考へてゐたのであります。ルソオの影響が著しく、カントの名が未だ知られなかつた頃に斯る説を爲したのでありますから注意を惹くに足ると思ひます。

ベスタロッチはヘルバルト學派の所謂興味を理解して居りません。ヘルバルト學派の立場へそれは屢々弱々しい、感傷的なものであると誤解されることがありますが、ベスタロッチの立場よりは遙かに進んだものであります。乍併、智識も統覺的の興味も、徳そのものすらも、力といふものがなかつたならば、又或る種の敏捷が習得され、時々骨折仕事に堪え得る頑強さがなかつたならば何の役にも立ちますまい。現代の最も忌むべき傾向の一つは行爲の力を缺いた智識、努力の力、征服の力を缺いた洞察の流行でありませう。

けれどもベスタロツチ自身の経験に徴してみま

しても、先生が熟練して居る場合には或種の強い興味が、形式的な又抽象的な勉強からでも起され得ることは明かであります。五歳や六歳の兒童でも數や形を扱つて數時間を喜んで過し得るのであります。けれども第二の形式的學課、文法（自國語の文法其他）に對してベスタロツチは些の顧慮をも爲しませんでした。彼は文法は殆んど興味を與へることの出来ない學課であると考へたのであります。スリングのやうな老練な教師でも文法を面白い學課とすることの出来なかつたのは事實であります。けれども普通の先生に取つてはすべての形式的學課は具體物と近密な關係を有してゐない限りは、換言すれば形式的な學課は全然形式的に取扱はれるのでない限りは興味あるものとはされません、ベスタロツチは算術に關聯してこの事を明かに述べて居ります、「事物の眞の關係はすべての計算の底に横つて居る」と彼は言ふのであり

ます。

## 智 的 獨 立

前節に於て述べたことを他の方面から、もう少し考へてみませう。

兒童は自ら考へるやうに教へらるべきであるといふ勸告は今日では一般に認められて居ることでもあります。

自分で考へるといふことは力の一形式でありまして道の表示ではありません、嚴格な制限内に於ていなくこの提言を學校で採用することは非常に危険であります。自分で考へるといふことに莫大な効果があるならば兎も角、こればかりに頼つて他を顧みないといふことは亂暴であります。勿論自分で考へることの必要は分つて居ります、けれども世界に於てこれまで考へられ、言はれしことの中の最上のものゝ幾部分かを知り、善なるもの、偉なるものに對する敬信の萌芽を持つといふ

ことは自分で考へることよりも更に必要でありま  
す。

ペスタロツチは一體何の位まで兒童をして自分  
で考へさせやうとするのでありませうか。イベル  
ドンの彼の學校に於ては、生徒は幾何學を案出さ  
せられます、教師はたゞ到達すべき結果のみを指  
示し、生徒をしてその過程を辿らしめるのであり  
ます。算術も同様にして教へられます。勿論これ  
は十分に正當であります、數學の主なる價值はそ  
れが與へてくれることの出来る心的訓練にあるの  
でありますから。たゞこの危険は他のことを閑却  
することであり、ペスタロツチの學校に於て  
も數學に重きを置くのあまり、この弊を免がれる  
ことが出来ませんでした。而かも尙私はこゝでも  
う一度人は自分で學び、自由に發達すべく力づけ  
らるべきであるといふことを繰返して置きたいと  
思ひます。

ペスタロツチも他の場所に於て、兒童はあらゆ

る學課に於て、自ら深く調べて行く力を持つやう  
に導かるべきであると言つて居ります。

これは半面の、若しくは四半面の眞理でありま  
すが兎に角眞理であります、而して個人性に關す  
るペスタロツチの原理からは當然引き出さるべき  
系論であります。

早熟の思慮深さや獨立を獎勵するのは危険であ  
ります、而してこのことはペスタロツチもよく知  
つて居ります、皮相的な、憶測的な間違つた判斷  
の成長を防ぐために、判斷や推理を働かせる前に  
先づ注意や觀察や記憶を働かせることの必要を感  
じます、否極く幼い兒童に對しては決して理窟を  
説いて聞かせるべきではありません。學習の時代  
は判斷の時代ではありません。

然るに他の一方に於て私達は、彼が「兒童は先  
づ感すべく及び思ふべく教へらるべきである、次  
ぎに話すべく、而して最後に讀むべく及び書くべ  
く教へらるべきである」と言つて居るのを見出し

ます。この場合に於ける思ふといふことは無論、觀念を持つといふ位の意味に解せらるべきであります。問答<sup>ソク</sup>究理<sup>ラチソク</sup>的な方法は既存智識の背景もなく言語の智識にも乏しい兒童には應用し難いものであります。

大體に於てベスタロッチはこの問題に關してはしつかりした判斷を示したやうに思はれます、彼はヒューマニスタツクな教育の要求とは没交渉のやうに見えますけれども、獨立した思想は廣い經驗によつて先立たねなければならぬといふことを認めて居ります。

フレーベルは明かに「自己活動」を尊重して居りますので、獨立した思想を獎勵するに傾いて居るのは當然であります。兒童は自身で行爲し、觀察し、實驗しなければなりません、而して兒童の質問は忽諸に附されてはなりません。

斯る勸告はたいそれだけならば危険でありますがフレーベルは幸にもベスタロッチと違つて兒童

の他の要求——例へば人情的な材料を供されること——を見て居ります、それですからフレーベルの教育法の傾向は單なる心的「力」を創造し、喚起するばかりでなく、この「力」を人格の用に供せんとして居るのであります、フレーベルも亦ベスタロッチと同じく兒童に對して、究理力は最後に生ずべきものであつて、その前に觀察や記憶や想像が發達されねばならぬと言つて居ります。

### 勉強の集中及び相依

ヘルバルト學派の人々は地理が歴史を助けるやうに相互に助け合ふことの出來るところの同格的題目を非常に尊重して居ります。彼等は斯くしてすべての智識の究理的統一感が得られると思つて居るのであります。これを目掛けてゐるのには實際的の理由もあるのであります、孤立した智識には興味がありません（統覺が起り得ないからです、ります）、それに記憶に止めて置くことが困難であ

ります。それですから一つの學課が他の學課の學習、記憶を助けないならば努力を無駄に費すことが多いこととなるのであります、而して輻輳した諸學課の弊も亦斯様にして倍加されるのであります。ヘルベルト學派の人々の中には學課の中心を作つて、これに屬すべき一群の學課目を選定しやうとしたものさへあります。

學課の集中及び相依の問題は現今では著しいものであります、ペスタロツチとフレーベルはこれに關してどんな考を懷いてゐたかを次ぎに調べてみませう。

ペスタロツチは學校の勉強と家庭の勉強とに連絡をつけること——家庭で受けた觀念を更に進んだ智識の獲得の出發點として用ゐることに重きを置きました。尙ペスタロツチは地理を博物學や農業や地方的地質學等に結びつけました。乍併彼は時間割などを作ることは思ひ及びませんでした。

彼は又兒童に一時に二つのことをさせやうとし

ました。一方手で仕事をしながら、一方智識的の仕事に従ふことを彼は兒童に行はせたのであります、しかし斯ることの效果は疑しくあります、而してこれは學課の相依といふことには太して關係がありません。ペスタロツチは手工(例へば紡車)を最初先づ十分に練習して、習慣性として了ふのであります、さうすれば數學のやうな智識的追求は一方手工をしながら同時に行ふことが出來るといふのであります、これは勿論分り切つた話であります。

相依の原理に就てはフレーベルの方がペスタロツチよりも遙かに注目し價ひする個所を多く持つて居ります。彼は言語や宗教や自然研究(數學をも含む)やは各孤立して存在し得ると想像することとは妄想であると言つて居ります、數學は自然研究を助けなければなりません、言語もさうであります、すべての智識は生々とした結合に於て在らねばなりません、「自己活動」及び「連續」に關聯し

て、フレーベルの組織の本質的要素として「連結」といふことがイギリスに於けるフレーベルの徒によつて唱へられました。彼の奨励して居る兒童の歌は生活と行爲とに結び付けられなければならないのであります。

連結せられない學課（フレーベルが幼時行はせられたやうな學校に於ける綴字法の如き學課）は何へも關係がなく、たゞ宙にぶら下つて居ります、而して直きに忘れられて了ひます。學課目が嚴格に區別せられるのは民族的、教育的の進歩に於て後に起るべき技巧的事柄であります。

吾人近代人の學ぶべき主なる學課は具體から抽象へ進み、現實の上に形式を築いて行くものでなければなりません。作文の題は孤立した主題を選ばずに、既に學んだ地理なり、歴史なりから選ぶやうにすべきであります。算術の練習問題にも歴史や地理や科學を用ゐることが出來ます、例へばバイカル湖の深さと海面との關係や英國諸王の平

均在位年限やは直ちに取つて算術の練習問題とすることが出來るではありませんか。歴史を學ぶ時には大きな聲を出して讀み、事實を覺えると共に讀書の熟練をも得るやうにするのであります、それから歴史を學ぶ時地圖を掲げて置くことは言ふまでもありません。

フレーベルのお話は單にお話だけではありませんでした。お話は中心で、圖畫や具體物や唱歌遊びや口演やがお話に關聯して居てその指揮に従つてゐたのであります、ヘルバルト學派の人々は一つの學課が他の學課の助けとなることの興味あることを指摘して倫理的根柢に於てもこの集中の必要なることを説いて居ります、フレーベルも同じ位熱心にこの集中を説いて居るのであります。

フレーベルの組織には中心學課（ヘルバルト主義が或る形式に於て現して居るやうに）といふものがあるでせうか、もし有りとすればそれは「自然研究」であります、しかし近代の學課目中に

は「自然研究」といふものはありませんから、この問題に對してあまり嚴格に述べることは避けたいと思ひます。

## ペスタロツチとフレーベル

### との類似

フレーベルの思想がペスタロツチの思想に如何に近似であるかを示すために兩者の類似點を抽き出して次ぎに掲げてみませう。

(一)「人間の神性」に關する漠然とした萬有神論的な見解、但しペスタロツチはこの信仰に於てかなり動搖してゐました。

(二)教育といふものは人間の内にある神の萌芽を自由、自發的に成長せしめるのが目的であつて、技巧的若しくは習慣的の要求によつて指定された進路を辿つてはならぬといふ見解。これはフレーベ

ルに於て特に著しくありました。

(三)發達の階段に重きを置き、その各の階段は障礙が起らない限り兒童によつて連續的に通過されなければならないと主張した點。

(四)種々の手工的、表現的の仕事に重きを置いた事

(五)數學と自然研究と地理とを重んじたこと。

(六)會話の目的の爲めに室内及び附近の諸物を用ゐる言語力の產出に努めたこと。

(七)家庭教育に重きを置き、家庭及び四圍の情況に基いて學校教育を行ふたこと。(了)



## 夏の玩具

記

者

▲夏の玩具と言へば砂遊びと水遊びに關係したものがその大部分を占めて居る。先づ砂遊びに關係した玩具には木製とブリキ製とのスベードや鍬や馬鍬がある、ブリキ製のは例のペンキ仕立て、甚だ感じがよろしくないが、木製の中には瀟洒な焼繪が施してあつて見た目も美しい。

▲夏の子供はスベードや鍬で砂場を堀りかへす、山をつくり、池をつくり、林をつくる。砂の凹凸だけで子供は豊かな景色を想像する、然し陶土製の汽車や柵や鳥居や富士や橋や旅人や帆掛舟や松の木があつたならば彼等はどうなにか喜ぶであらう

▲機敏な玩具商人は陶土製の鳥居や旅人や松の木に鋲まで添へ、箱入りにして店頭に並べて居る。

子供はこれによつて作り附けの箱庭を作るのも面

白からう、毎日變つた景色を砂場に作つてみるのも更に愉快な仕事であらう。

▲次ぎに水遊びに關した玩具であるが、これには種々ある、昔から縁日商人のよく賣つて居る「水中花」といふのがある、折れた線香のやうなのを水に入れると濕つて膨大し、菖蒲花と咲いたり、屋根舟となつて小さい浪間に浮び上つたりする。

▲それから近頃をルロイド製の精巧な睡蓮が出来て居る。これは子供の玩具といふよりも大人の觀賞用に供せらるべきものである。これに對して「水に住む女神」の連想を得るなどといふことは晴れやかな子依の領分外の出来事である。

▲覗き眼鏡から思ひ附いて出来て居る紙製の水族館がある。側についてゐるネヂをひねると小さい

魚が動く、動く。然したいそれだけの玩具である

▲鹽に水を張つて浮べるにはセルロイド製の魚がある、白鳥がある、ゼンマイ仕掛けで抜手を切るブリキ製の游泳人形がある。

▲水鐵砲(鉛のビストルにゴム製の球が附いて居る)は愉快である。太郎と次郎が水鐵砲を打ち振りつゝ、喊聲を揚げて家鴨の群を襲撃する様が目に見える。「め組」などと書いた龍吐水の玩具がある、ちやんちやんこを着た下町の子供を思ひ浮べる。

▲水遊びになくてならないものは舟であらう。玩具店にも舟の種類は多い。ブリキ製のと木製のと土製のとがある。

▲ブリキ製のには近代的の船舶が多く、軍艦や商船を巧みに模したのがある、木製のには獨木舟や三角帆船や五大力等がある、土製の舟はすべて簡單である、中には眺めるだけで浮ばないものもある

▲篠込みになつて居る木の舟がある。外縁の一まわりを外すと前よりは一まわり小さい舟になる、

もう一まわり外すと更に小さい舟になる。この舟は三つが一組で箱入りになつて居る

▲これは舟の大きさをいろいろにすることが出来るから面白い、いろいろの大きさの舟を小川の上流から出發させてボートレースをさせて見るのも面白いに違ひない

▲狸の乗つて居る舟と、兎の乗つて居る舟とで一組になつて居る玩具がある、これは子供が水の上で小さい劇的本能を満足させる材料となるのである。白木で拵へた水車の玩具がある、小さな臼と杵とが取附けてあつて米が搗ける様になつて居る

▲適當な流水に据ゑて精米を一手に引受けやうとする子供も出て来るのであらう。その他小さい鹽や洗濯杓や片手桶などが一式箱入りになつて居るものもある。幼い女の子供に喜ばれるものとしてはまだアケビヅルの旅鞆に大皿、小皿を始めとしてビール瓶、ナイフ、フォーク等の西洋料理道具一式を詰め込んだのがある。

顧問 高島平三郎先生

# モドコ

日本一の繪雑誌

## 本誌の特色

- |                          |                          |                          |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 記事の面白いこと                 | 繪の美しいこと                  | 最も平易なこと                  | 最も教育的なこと                 | 最もまじめなこと                 |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

本誌は最も着實にして教育的幾多畫雜誌中獨自の地歩を占む。記事は全部片假名にて極めて平易。八九歳以下の子供の絶好伴侶なり。

發行所 東京市小石川區林町五十七

モドコ社

電話 振替 番東 町京 六二 七 一 九 六 八 三 番

定價一冊拾錢  
郵稅五厘  
□六冊郵稅共  
五拾八錢  
□十二冊郵稅  
共壹圓拾錢  
□總て前金の  
事

# の一本日 年幼本日

□ 倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雑誌です。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となります。

## 定價

壹冊拾錢    □半年 郵税共六拾參錢  
郵税壹錢    □壹年同 壹圓貳拾錢

婦人畫報  
少女畫報  
日本幼年

發行所

東京橋鍛冶橋外  
振替東京四九〇〇

東京社

# フレーベル會規則 (抄)

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保

育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ獻出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノ

ハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、澤育參考品

幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス

一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演

說、談話、協議、實驗等ヲナス

尙毎年四月廿一日特ニフレーベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク

一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組

織ス

但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メル事件

## 本會々々長

中川謙二郎

## 本會幹事

(イロハ順)

井村 くに	池田 トヨ	坂内 ミヅ
大瀧 晴	和田 實	和田 くら
倉橋 惣三	安井 哲	福田 ふく
小向 きみ	雨森 劍	坂井 ふで

## 本會評員 (イロハ順)

乙竹 岩造	吉田 熊次	田中 ふさ
野口 幽香	横山 榮次	藤井 利譽
下田 次郎	日田 權一	

## 本會客員 (イロハ順)

伊澤 脩二	巖谷 季雄	岩谷 英太郎
波多野 貞之助	細川 潤次郎	本間 辰藏
戸野 周次郎	大瀧 甚太郎	奥 好義
尾田 信忠	大久保 介壽	嘉納 治五郎
唐澤 光德	谷 本 富	高島 平三郎
棚橋 源太郎	多田 房之輔	田中 敬一
中島 力造	中村 五六	野尻 精一
野上 俊夫	久留島 武彦	松本 亦太郎
松本 孝次郎	馬上 孝太郎	富士 川游
小西 信八	淺岡 一	雀部 顯宜
櫻井 光華	三島 通瓦	篠田 利英
東基 吉	瀬川 昌書	尺 秀三郎
菅原 敦造		

土方久元伯、股野琢、與倉喜平三閣下題字並序  
東京帝大教授中島力造、松本亦太郎兩文學博士序  
東京高師教授乙竹岩造、佐々木吉三郎兩先生序  
東京女子高等師範學校教授下田次郎先生序 平瀬龍吉著

# 萬民 兒童問題之將來 必讀

親として子を愛せない者はなく、子孫の出精と發展を望まない人はない。本書は斯る父母と幼稚園娼婦の爲に無垢の兒童を立派な人物に仕立てる途をば面白く流麗、玉の様な歌の體に書き流したもので何人も一度本書を繙く時は其面白さに酔されて巻を終ふるを忘るゝと云ふ一大快著たることは甲賀ふじ子先生を始め斯道大家たる乙竹岩造先生等が『本書は兒童問題の將來を面白く説いた本で、廣く一般家庭に詳讀諷唱せられましたら、到る所、偉大なる富豪金傑の氣魄精神を兒童の間に鼓吹することを得て、大和民族の發展と幸福進歩の爲に大なる益を與ふるものたるを保證して疑はない』との評語を見ても明かである。子女の賢明を望まゝるゝ父母と兒童を愛する方々が之に依りて新しき教訓と大なる利益を受けられんことを望む。

正價金壹圓參拾錢送料拾錢

發行所

東京市小石川區大原町十四

幸運社

賣捌

東京麴町區三番町

フレーベル館

振替東京參壹八八九番

振替東京一九六四〇番

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)

婦人と子ども 第十六卷

大正五年八月五日發行  
大正五年八月五日納本済

印刷所

凸版印刷株式會社本所分工場